

# 道徳

福島県中学校教育研究会道徳専門部報 No.56

令和6年3月1日発行

発行者 福島県中学校教育研究会道徳専門部

責任者 神尾 孝弘

事務局 川俣町立山木屋中学校 (024-563-2104)



## あいさつ

福島県中学校教育研究会 道徳部長 神尾 孝弘

令和5年度は、「自己を見つめ、他者と共によりよい生き方を探究する道徳の学びはどうあればよいか」を主題とする研究の2年目でした。研究副主題を「自己を振り返り、よりよい生き方についての考えを深めることができる指導方法の工夫」として、昨年度の成果と課題を踏まえ、県内各支部の会員の皆さんが創意あふれる実践研究を積み上げてこられました。その熱意と努力に敬意と謝意を表します。

それらの内容は、10月5日に行われた、福島県中学校教育研究協議会いわき大会の道徳部会において、各支部代表から報告され、質疑・応答や活発な意見交換により、研究の成果や課題が共有されました。会場と授業を提供いただいた小名浜第一中学校の先生方をはじめ、大会の運営にあたりご尽力いただいたいわき支部道徳部の皆さんに厚く感謝申し上げます。

公開いただいた研究授業や事後の研究協議を通して感じたことは、授業者だけでなく参加者全員が、研究主題や副主題の具現化を本気で考えていたということです。「生徒一人一人がよりよく生きるための基盤となる道徳性を養っていくために、道徳の授業をこうしたい」という熱意が伝わってきて、心強く感じるとともに、道徳教育の充実の輪が県内に広がっていくのを実感しました。

令和6年度（3年次）は、これまでの2年間で積み上げてきた「指導方法の工夫」の研究を踏まえ、「評価の工夫」について研究を推進します。道徳の授業の評価は、他の生徒との比較によるものではなく、生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価として行うこととされています。日々の授業で、「生徒の何を、どのように見取るべきなのか」そして、「その評価を次の指導にどう生かしていくべきなのか」について、道徳専門部全体で研究を深められればと思います。本研究の集大成としての年度として、全県をあげて充実した研究を推進し、生徒一人一人の成長につなげていけるようお願い申し上げます、挨拶いたします。

### 令和4年度～令和6年度研究主題・副主題について

研究主題（令和4年度～令和6年度）

「自己を見つめ、他者と共によりよい生き方を探求する道徳の学びはどうすればよいか。」

#### 《研究副主題の概要》

|  |   |
|--|---|
| 〈令和4年度〉<br>自己を見つめ、多面的・多角的に考えることができる指導方法の工夫<br>中学校学習指導要領解説<br>「特別の教科 道徳編」P.83 (4)         | 生徒の感性や知的な興味などに訴え、生徒が問題意識をもち、主体的に考え、話し合い、さらに考えを深めることができるように、ねらい、生徒の実態、教材や学習指導過程などに応じた適切な指導方法を研究する。<br>・教材を提示する工夫<br>・発問の工夫<br>・動作化、役割演技など表現活動の工夫<br>・板書を生かす工夫        |
| 〈令和5年度〉<br>自己を振り返り、よりよい生き方についての考えを深めることができる指導方法の工夫<br>中学校学習指導要領解説<br>「特別の教科 道徳編」P.93 (2) | 生徒が自分自身のものの見方や考え方、感じ方の根拠やよりどころを明らかにする過程を通して自分を見つめ、見直すことのできる指導方法について研究する。<br>・対話が深まる話し合いの工夫<br>・書いたり発表したりする活動の工夫   |
| 〈令和6年度〉<br>自己の学びと自らの変容を実感することができる評価の工夫<br>中学校学習指導要領解説<br>「特別の教科 道徳編」P.114 (3)            | 生徒が道徳的価値の理解を自分との関わりで深めていることを実感でき、さらに意欲的に取り組もうとするきっかけとなる、いろいろな評価の方法について研究する。<br>・生徒の作文やエピソード、レポートなどの蓄積と活用<br>・年間を通した計画的な評価の工夫とその蓄積<br>・複数の教師による指導形態の工夫と多面的・多角的な評価の工夫 |

## 県大会いわき大会を振り返って

県中教研道徳部専門部 いわき支部長  
いわき市立久之浜中学校長 藤川 治洋

新型コロナウイルス感染症が5類へと移行したことに伴い、今年度のいわき大会は、数年ぶりの対面での開催となりました。遠方の各支部からいわきの地へお越しいただき直接各支部の取り組みについて拝聴できたことは、ここ数年のリモート配信では味わえなかった人と人との繋がりを感じさせる温かな大会となりました。

今年度は、研究主題の二年次となり、副主題である「自己を振り返り、よりよい生き方についての考えを深めることができる指導方法の工夫」について、各支部で工夫を凝らして研究が進められてきました。

いわき支部では、「考え、議論する道徳」の授業をつくりあげていくには、発問の工夫と話し合いを進めていくためのファシリテーターとしての力量をアップさせる必要があると考え、そのための工夫として、「道徳授業作成プランニングシート」を作成しました。このシートを会員が授業者だったとしたらという視点でそれぞれ作成し、夏の研修会を実施しました。部員皆で、つくりあげていくという形で研究を進め、会場校である小名浜第一中学校の3名の先生方の公開授業へと研究を繋げてきました。

研究協議Ⅰでは、各支部の取り組みについて、活発な意見交換がなされました。また、研究協議Ⅱは、公開授業についてKJ法を活用したワークショップ形式で実施しました。和気あいあいの雰囲気の中、あっという間に時間が過ぎてしまいました。

次年度からは、県大会は支部ごとの開催ではなく、新しいスタイルでの開催となります。担当支部である岩瀬支部の皆様にご挨拶を送り、大会の成功をお祈り申し上げます。

結びに、神尾孝弘県道徳専門部長をはじめ、事務局、指導助言の先生方、会場校である小名浜第一中学校の先生方、各支部の先生方、いわき支部の会員の皆様のご理解とご協力により、本大会を滞りなくできましたことに、心より感謝申し上げます。

## 県大会を岩瀬支部で迎えるにあたって

県中教研道徳専門部 岩瀬支部長  
須賀川市立義務教育学校稲田学園校長 星 彰

令和6年度に岩瀬支部で、県内の先生方をお迎えして、道徳部の県大会が実施できますことを大変うれしく思います。お迎えする岩瀬支部としても、大きな学びの機会となることと期待しています。

岩瀬大会を実施する須賀川市は翠ヶ丘公園や釈迦堂川を有する緑豊かなまちであるとともに、「特撮の神様」と称される円谷英二監督と1964年東京オリンピックマラソン銅メダリストの円谷幸吉選手の故郷でもあります。お越しいただく先生方には時間を見つけて須賀川市の魅力にも触れていただければと願っています。

さて、道徳科では、道徳的諸価値についての理解をもとに、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方について考えを深めていくことと共に、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うための「考える道徳」「議論する道徳」の推進が求められています。

また、令和6年度は研究副主題の「自己の学びと自らの変容を実感することができる評価の工夫」を受け、評価の工夫により焦点をあてていく必要があると思います。先生方にとっては、どうすれば生徒が道徳的な価値に迫ることができるかということについては、普段からよく考えていても、その後の「評価」への意識はそれほど高くないかもしれません。しかし、生徒が「自らの変容を実感」するためには、指導と評価の一体化をより推進しなくてはならないと考えています。

とはいえ、目の前の生徒の状況に寄り添わない、よそ行きの研究を進めるのであれば、先生方にとっても生徒にとっても、実りのある研究とはならないでしょう。県大会ではこれまでの研究を基に、岩瀬支部の先生方がこれまで取り組んできたことと、取り組みの改善の視点を提案できればと考えています。

次年度の研究の推進にあたり、様々なご指導をいただくことになるとと思いますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

## 令和6年度（3年次）の研究推進にあたって

### (1) 各支部主題研修会と県大会参加にあたって

県道徳専門部総会（兼主題研修会）での主題及び副主題についての説明をもとに共通理解を図った内容を各支部会員で共有してください。その内容をもとに、各校の実践研究を行い、支部研究協議会での協議を踏まえて、県研究協議会への参加をお願いします。

### (2) 県研究協議会の持ち方、発表支部について

- |           |   |                                    |                   |
|-----------|---|------------------------------------|-------------------|
| ① 期       | 日 | 令和6年10月4日（金）                       | 県中教研研究協議会道徳部会岩瀬大会 |
| ② 会       | 場 | 須賀川市立義務教育学校稲田学園、須賀川市立大東中学校         |                   |
| ③ 発表支部・学年 |   | 福島、耶麻・両沼（1年） 相双、いわき（2年） 安達、北会津（3年） |                   |

# 令和6年度の研究副主題について

## 研究副主題(令和6年度)「自己の学びと自らの変容を実感することができる評価の工夫」

### 1 副主題に迫るために

令和6年度(3年次)の副主題に迫るため、「生徒が道徳的価値の理解を自分との関わりで深めていることを実感でき、さらに意欲的に取り組もうとするきっかけとなる、いろいろな評価の方法」について研究を推進していく。

評価の研究を進める上では、道徳科の学習活動に着目して、生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすような評価を行う必要がある。そのために、生徒が一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかといった視点を重視することが求められる。



### 2 「自己の学びと自らの変容を実感することができる評価」のための視点

評価に当たっては、授業において生徒に考えさせることを明確にして、学習活動における生徒の具体的な取組状況を、一定のまとまりの中で学習活動全体を通して見取ることが求められる。それを踏まえ、自己の学びと自らの変容を実感することができる評価を行うための視点として、次の2つを設定する。

#### 【視点1】一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか

- ・道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠やそのときの心情を様々な視点から捉え考えようとしている。
- ・自分と違う立場や感じ方、考え方を理解しようとしている。
- ・複数の道徳的価値の対立が生じる場面において取り得る行動を多面的・多角的に考えようとしている。など。

#### 【視点2】道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか

- ・読み物教材の登場人物を自分に置き換えて考え、自分なりに具体的にイメージして理解しようとしている。
- ・現在の自分自身を振り返り、自らの行動や考えを見直していることがうかがえる部分に着目している。
- ・道徳的な問題に対して自己の取り得る行動を他者と議論する中で、道徳的価値の理解を更に深めている。
- ・道徳的価値を実現することの難しさを自分のこととして捉え、考えようとしている。など。

### 3 評価のための工夫(例)

生徒が学習活動を通じて多面的・多角的な見方へと発展していることや、道徳的価値の理解を自分との関わりで深めていることを見取るために、例えば、次のような評価の工夫が考えられる。

- (1) 生徒の学習の過程や成果などの記録を計画的にファイルに蓄積したもの。(ICTも含む)
  - 1単位時間の授業だけでなく、生徒が一定の期間を経て、多面的・多角的な見方へと発展していったり、道徳的価値の理解が深まったりしていることを見取ることができる。
- (2) 生徒が道徳性を養っていく過程での生徒自身のエピソードを累積したもの。
  - 学習過程を通して、生徒がいかに自分との関わりで考えたかなどの成長の様子を見取ることができる。
- (3) 作文やレポート、スピーチやプレゼンテーションなど具体的な学習の過程。
  - 学習過程を通して、生徒がいかに道徳的価値の理解を深めようとしていたかなどの成長の様子を見取ることができる。
- (4) 生徒が行う自己評価や相互評価。
  - 生徒自身が自身のよい点や可能性に気づくことを通し、主体的に学ぶ意欲を高めることなど、学習の在り方を改善していくことに役立つ。
- (5) 教師が交代で学年の全学級を回って道徳の授業を行う取組。
  - 生徒の変容や新たな一面を複数の目で見取ることが可能になり、多面的・多角的な評価を進めることができる。
- (6) 「困難さの状態」を把握した評価。
  - 発達障がいや日本語習得に困難がある生徒等に対して、うなずきやつぶやき、動作や仕草での見取りを行うことで、想定される困難さを軽減させ、道徳性に係る成長を促していく。

#### ※参考資料

- 中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科道徳編/文部科学省
- 令和4年度道徳の礎(いしずえ)/福島県教育委員会
- 道徳科の指導・助言の在り方/文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 堀田竜次(令和5年度道徳教育推進研修資料)

## 令和5年度 道徳専門部会組織

|     |                 |     |       |                 |
|-----|-----------------|-----|-------|-----------------|
| 部 長 | 神 尾 孝 弘 (山木屋中)  | 支部長 | 福 島   | 神 尾 孝 弘 (山木屋中)  |
| 副部長 | 小笠原 義 徳 (伊 達 中) | 〃   | 伊 達   | 小笠原 義 徳 (伊 達 中) |
| 〃   | 児 玉 剛 明 (川 谷 中) | 〃   | 安 達   | 佐 藤 聡 (本宮二中)    |
| 〃   | 園 部 毅 (西会津中)    | 〃   | 郡 山   | 荻 野 由 則 (安積二中)  |
| 〃   | 埴 広 治 (原町一中)    | 〃   | 岩 瀬   | 星 彰 (稲田学園)      |
| 総 務 | 嶺 岸 陽 子 (北 信 中) | 〃   | 石 川   | 石 沢 泰 蔵 (石 川 中) |
| 庶 務 | 佐 藤 直 恵 (信 夫 中) | 〃   | 田 村   | 高 橋 宏 信 (岩 江 中) |
| 会 計 | 佐 藤 芳 江 (山木屋中)  | 〃   | 頼 じらゆ | 児 玉 剛 明 (川 谷 中) |
| 研究部 | 佐久間 徹 (蓬 萊 中)   | 〃   | 北会津   | 玉 木 敏 彦 (若松五中)  |
| 〃   | 平 岡 杏 樹 (福島一中)  | 〃   | 耶 麻   | 園 部 毅 (西会津中)    |
| 〃   | 村 上 美 紀 (福島二中)  | 〃   | 両 沼   | 川 島 淳 (本 郷 中)   |
| 〃   | 渡 邊 潤 平 (平 野 中) | 〃   | 南会津   | 鶴 卷 厚 保 (檜枝岐中)  |
| 〃   | 瀧 詩 織 (吾 妻 中)   | 〃   | 相 双   | 埴 広 治 (原町一中)    |
|     |                 | 〃   | いわき   | 藤 川 治 洋 (久之浜中)  |

## 令和5年度道徳部会事業の概要

| 月 日           | 場 所         | 要 項 ・ 内 容   | 月 日     | 場 所          | 要 項 ・ 内 容  |
|---------------|-------------|---|---------|--------------|--|
| ～5月上旬         | 各支部         | ◎支部道徳専門部総会<br>○令和4年度事業報告・決算報告<br>○令和5年度事業計画・予算案<br>○研究内容と研究推進計画<br>○役員改選  | 10/5(木) | いわき          | ◎県中教研研究協議会いわき大会<br>○会 場 小名浜第一中学校<br>○授業者<br>1年 長瀬 訓先生(小名浜一中)<br>2年 佐藤奈々先生(小名浜一中)<br>3年 鈴木僚太先生(小名浜一中) |
| 5/11(木)       | 福 島         | ◎県中教研総会<br>◎県道徳専門部長会(兼主題研修会)<br>○令和4年度事業報告・決算報告<br>○令和5年度事業計画・予算案<br>○研究内容と研究推進計画<br>○役員改選<br>(以下は、主題研修の部分)<br>○令和5年度研究主題確認<br>○研究内容と研究推進計画<br>○県研究協議会の運営<br>○各支部研究協議会の運営 | ～10月下旬  | 事務局<br>各支部   | ◎県研究協議会報告書のまとめ<br>(開催地区から県総務へ提出)<br>◎県研究協議会報告会   |
| 5月下旬<br>～6月上旬 | (本部)<br>各支部 | ◎主題研修報告会(資料作成・報告)<br>○支部研究推進の確認   | 12月～1月  | 福 島          | ◎道徳専門部事務局会<br>(12/11、1/15 )<br>次年度研究部報(案)の作成   |
| 7月下旬          | 各支部         | ◎支部研究協議会(夏季)<br>○研究主題(令和4～6年度)<br>自己を見つめ、他者と共によりよい生き方を探求する道徳の学びはどうすればよいか<br>○令和5年度(2年次)研究副主題<br>自己を振り返り、よりよい生き方についての考えを深めることのできる指導方法の工夫                                   | 1/31(水) | ハイブリッド<br>開催 | ◎研究推進委員会(専門部長会)<br>○会場 本宮第二中学校<br>(ハイブリッド開催)<br>○内容 部報(案)研究副主題解説等の検討 他                               |
|               |             |   | 2月下旬    | 事務局          | ◎道徳部報第56号編集完了<br>◎事務局会<br>○令和5年度事業・会計のまとめ<br>○令和6年度事業・予算   |
|               |             |   | ～3月     | 各支部          | ◎道徳部報第56号HP掲載<br>◎支部研究のまとめと次年度計画   |